

メール配信依頼 専用電話番号 080-5804-5871

# 守恒SOSネットワークだより



第7号 平成25年11月1日発行  
守恒SOSネットワーク会議

認知症を考えるつどい(県社協主催)で事例発表！

明日への伝言板で取り組み紹介！



10月9日(水)福岡県社会福祉協議会主催の「認知症を考えるつどい」が春日市のクローバープラザホールで行われ、笹月会長が「徘徊高齢者探索、メールでつながる地域づくり」との演題でおよそ300人の参加者を前に、事例発表を行いました。



昨年度のメール配信を中心とした取り組みが人権を考える5分間のラジオ番組「明日への伝言板」で放送されます。11月25日(月)18時55分から、再放送は3月1日(金)16時45分からです。

## 地域で見守りができるように—2007年 JR 東海列車事故を題材に—

10月28日(月)の学習会では、2007年に起きたJR東海の列車事故を題材にして、「地域でいろいろな人が、気持ちよく、見守り活動に関われる背景」について、在宅サポートながさきクリニック院長 長崎修二先生にお話し頂いた後、参加者全員で考えました。この事故では、列車に轢かれて亡くなった91歳男性を、いちばん熱心に介護していた長男に「見守りを怠った」としてJR東海から720万円の損害賠償が請求され、現在控訴中です。「かわいそう」、「これはひどい」という感情論だけでは、何も進みません。もし、JRの職員さんが「認知症サポーター」で、最初にこの高齢男性を見たとき「これは危ない」「ちょっと声を掛けてみよう」というような行動に出ていたら事態は変わっていたかもしれません。学習していれば、危険箇所を確認し、予めホームから降りられないように柵を設置していたかもしれません。もちろん事故によって代替え輸送を余儀なくされたJRへの補償も必要でしょう。個人に負担を強いることなく事故証明書の発行等で、損害賠償が可能になれば、徘徊を懸念するあまりの「閉じ込め」なども起きないはず。辛い事故に被害者も加害者もつくりたくない時代の到来が少しでも早いことを望みます。全国で「認知症サポーター」は、440万人になりました。守恒校区では、民生委員・福祉協力員が熱心に活動しています。SOSメールが流れた際、「関心を持ち、気にする」風土もできました。サロン事業も校区内の各地で継続して行われています。みんなが地域の一員として、緩やかにつながって、安全・安心の見守り活動を続けていけるといいですね。



\*\*\*\*\*

**次回は、12月9日(月)19:30分からです。**

認知症の高齢者を理解する紙芝居「大好きだよ おばあちゃん」のDVDを見た後  
来年2月15日(土)に予定している検索模擬訓練について、意見交換をします。

(アイデア、前回参加しての気づき等・・・)

※ どなたでもご参加いただけます。一緒に学びませんか？